

授業科目 比較文化学特論Ⅱ	単位 2単位
授業担当者 吉田 憲司	授業期間 後期
授業の題目と概要 博物館人類学の最前線 2010—表象の詩学と政治学	
<p>授業の内容と計画</p> <p>文化の表象の場として、人類学(民族学)と博物館・美術館は、これまで考えられてきた以上に密接に結びつきながら展開してきた。この授業では、筆者のアフリカでのフィールドワークの成果に基づきながら、西洋近代の生み出した博物館・美術館という装置が、「異文化」や「自文化」をいかに収集し、表象して行ったかを歴史的に検証するとともに、1980年代以降の文化の表象をめぐる新たな試みを検討する。そこでは、美術館と博物館、美術史学と文化人類学、芸術と非芸術、西洋と非西洋といった既成のあらゆる区別が再検討されることになる。近代が生み出した「文化を構築する装置」としての博物館・美術館のはらむ問題点を洗い出しながら、次代に向けての新たな可能性を探るのが、この授業の目的である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 インTRODクシヨン:問題点の共有 —「異文化へのまなざし」展再訪</li> <li>2 契機「20世紀美術におけるプリミティヴィズム」展 —人類学とアートの出会い、そして闘争</li> <li>3 アフリカの造形の現在 —「仮面の森」へ</li> <li>4 民族誌展示の系譜 —驚異の部屋から20世紀の民族学博物館・近代美術館まで</li> <li>5 新たな試み —民族誌展示の現在</li> </ol>	
使用する参考書、参考論文等 吉田憲司『文化の「発見」』(岩波書店 1999) ほか	
成績評価基準 この授業では、講義内容に関する全員でのディスカッションを重視する。 履修者の積極的な参加を期待する。	
その他の留意事項 集中講義形式で実施する。	

